

平成26年度水産関係試験研究機関評価部会 議事録

日 時：平成27年2月5日（木）

場 所：宮城県水産技術総合センター 大会議室

出席委員： 大関芳沖 委員（部会長） 伊藤絹子 委員（副部会長）
須能邦雄 委員（水産部会委員） 斉藤和枝 委員（水産部会委員）

1 開 会

（司会：西城技術主幹）

- ・定刻となりましたので、ただいまより「平成26年度水産関係試験研究機関評価部会」を開催いたします。なお、本評価部会は、審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱に基づき、公開となっております。

2 あいさつ

（司会：西城技術主幹）

- ・開会にあたりまして、水産技術総合センターの山岡所長から一言御挨拶申し上げます。

※山岡所長の挨拶

- ・ありがとうございました。次に、独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 業務推進部長の大関芳沖様が平成26年12月1日付けで宮城県試験研究機関評価委員会の委員及び当水産関係評価部会の部会長に委嘱されておりますので、御紹介いたします。

※大関部会長から一言挨拶

3 諮問書交付

（司会：西城技術主幹）

- ・次に本日の評価部会に関しまして、知事からの諮問書を大関部会長にお渡しさせていただきます。

※山岡所長から大関部会長に手渡し

4 出席者の紹介

（司会：西城技術主幹）

- ・それでは、本日、ご出席いただいております委員の方々をご紹介致します。

※委員名簿の順に紹介

（司会：西城技術主幹）

- ・続いて、県の主な出席者を紹介させていただきます。

※県出席者の紹介

5 資料確認

(司会：西城技術主幹)

- ・次に、本日の資料の確認をさせていただきます。
- ・本日配布の資料は、次第及び出席者名簿、審議事項関係で事前に送付しました資料1-1、パワーポイント資料1-2、1-3、1-4、資料1-5評価表、こちらも事前に送付させていただいておりました資料2-1宮城県水産業試験研究推進構想(案)、資料2-2宮城県水産業試験研究推進構想に係る意見表、資料2-3推進構想(案)のパワーポイント資料、資料3-1平成27年度水産関係試験研究計画(案)、資料3-2平成27年度水産関係試験研究課題体系図、委員の皆様には「宮城県 伊達いわな」というタイトルの1ペーパーを追加資料としてお配りしております。

6 審議

(司会：西城技術主幹)

- ・それでは、審議に移りたいと思います。
- ・審議につきましては、試験研究機関評価委員会条例の規定に準じまして、大関部会長に進行をお願いいたします。では、大関部会長よろしく申し上げます。

(大関部会長)

- ・部会長の大関でございます。審議の進め方としては、次第のとおり、事後評価、事前評価の順番で進めたいと思います。各課題については、担当者から15分以内で説明いただき、その後、10分程度質疑の時間を設けたいと思います。委員の皆様よろしいでしょうか。

(委員) 異議なし

(大関部会長)

- ・それでは、平成25年度重点的研究課題の事後評価について、「重要藻類の養殖技術高度化と新養殖品目の開発」を説明願います。

※養殖生産部 谷合研究員、押野総括研究員の順番で説明

(大関部会長)

- ・ただ今、説明のありました課題について、各委員から何か御質問、御意見はございませんか。

(斉藤委員)

- ・大変興味深い内容であり、しかも漁業者のためになる研究と思います。
- ・早苗と気仙沼系統の交配種は高温耐性が高いことは解りましたが、その品質はどうでしょうか？良いワカメは三陸のブランドになると思いますので、製品の様子を教えてください。

(押野総括研究員)

- ・震災後の養殖漁場の区割り作業等により、養殖試験が出来ませんでした。
- ・成長に関しては、早苗は3m近くまで、大島も2~3m程度まで成長しますので、成長に関しては良いものと思われませんが、品質に関しては確認しておりません。

(伊藤委員)

- ・タオヤギソウを培養する際はエアレーション等は使用したのですか？詳しい方法を教えてください。

(押野総括研究員)

- ・震災直後は宮城大学内のショーケースを借りて実施したので、エアレーションまではできませんでした。しかし、エアレーションが無くても栄養塩と光を与えるだけで、想像以上に成長しました。

(伊藤委員)

- ・海藻類は滅菌海水にエアレーションするだけで成長が良くなります。今後、技術を確立しマニュアル化していただきたいと思います。

(大関部会長)

- ・内部評価結果で目標達成度が「やや計画以下」となっていますが、スライドの年次計画では、ノリの色落ち発生予測技術開発は震災の影響で実施できないので、「計画なし」となっています。そうすると、目標達成度は「計画どおり」ということになるのではないかと思います。
- ・当該事業は、近年、冬季の低水温、夏季の高水温と海藻類に影響を与える要因が多いことから、「それぞれの海藻の特性を生かして、上手く養殖するにはどうしたら良いか」という内容と認識したのですがそれでよろしいでしょうか？

(谷合研究員)

- ・はい。

(押野総括研究員)

- ・ワカメに関しては、秋口の芽の状態が、その後の生産に大きく関わってくるので、そこに焦点を合わせて事業を実施しています。

(伊藤委員)

- ・病気が出やすいのは冬場の低水温ですが、低水温というよりは、急激に水温が下がることによる温度ストレスにより、病気が発症するのではないのでしょうか？

(谷合研究員)

- ・それぞれの藻類の生育下限値があります。ワカメであれば6℃と言われておりますが、急激に水温が下がれば、生理活性が低下し、細菌性の病気が出てくるものと考えられます。

(大関部会長)

- ・次に平成25年度重点的研究課題の事後評価の2つめ、「内水面優良種苗実用化事業」を説明願います。

※内水面水産試験場 杉本研究員説明

(大関部会長)

- ・ただ今、説明のありました課題について、各委員から何か御意見、御質問はございませんか。

(須能委員)

- ・今年はずりギンの輸入が多くなるだろうと予想されています。
- ・そういう中で、養殖ギンザケを生食用として売り込もうとしています、マーケットがそれに付随していないと考えます。
- ・活べ方法、給餌と成長の関係、餌のコスト削減等が問題になっていますが、それらに対応するため、内水試で海面を借りて、業界に対し貢献度の高い様々な試験を実施してほしいと考えます。
- ・これまで、宮城県は何十年も養殖ギンザケに取り組んでいますが、生産現場と研究者サイドに乖離があると感じます。
- ・また、鮭鱒は百年の歴史があるのに、進歩が少ないと感じます。過去の文献をチェックし、様々な知見を収集し、新局面を開いてもらいたいと思います。

(杉本研究員)

- ・先端プロ研（食料生産地域再生のための先端技術展開事業）では、大学や民間企業と共同研究しておりますので、その中で十分意見交換していきたいと考えております。また、魚粉の高騰による餌代の上昇などの問題も生産現場から聞こえてきております。そのような現場のニーズなどを把握し課題化していきたいと考えております。

(永島場長)

- ・須能委員ご指摘の点につきましては、先端プロ研でほとんど網羅されております。内水試では高成長ギンザケや病気の問題に取り組んでおりますが、餌の問題等については、ニチモウや国の研究機関が取り組んでおります。この先端プロ研の中間報告が3月に石巻市内で開催されますので、ぜひ、お話を聞いていただければと思います。

(大関部会長)

- ・イワナ全雌三倍体の生産技術のマニュアル化についてですが、生産方法を見直し、ある程度の目途が立っていると伺ったと思いますがいかがでしょうか？詳しく説明をお願いいたします。

(杉本研究員)

- ・今年度、私が初めて担当したということもあり、これまでの知見を整理し、少し方法を変えました。まず、温度処理時のハンドリングの影響を軽減したということと、これまでのように若くて小さなイワナを親魚にするのではなくて、大型のイワナを親魚とすることによる卵サイズの大型化によって、物理的な刺激に耐えうる大きな卵で試験を実施しました。この辺にポイントがあるものと考えております。

(大関部会長)

- ・仙台市内で伊達イワナを提供している店舗は増えているのでしょうか？

(永島場長)

- ・岩手県や秋田県で少し増えております。県内の店にも頑張っけて引き続き PR したいと思っております。

(大関部会長)

- ・それでは、次に平成27年度新規重点的研究課題の事前評価を行います。「高鮮度魚加工技術の開発

試験」について説明願います。

※水産加工開発部 永木副主任研究員説明

(大関部会長)

- ・ただ今、説明のありました課題について、各委員から何か御意見、御質問はございませんか。

(斉藤委員)

- ・事前に資料を送付いただいた時から楽しみにしていましたし、とても大事な視点であると考えます。
- ・最初の原料の鮮度は、どこまでも品質に影響してくると毎日現場で実感しております。最初の原料が良ければ、出汁も製品も違ってきます。高鮮度な魚を直ぐに加工できるのは宮城県の地の利であると思います。
- ・京都にイワシの加工品で有名なところがありますが、そのようなところに差をつけられるのは高鮮度な魚があるからこそだと思います。
- ・また、定置網の業者から聞きましたが、カツオの不漁時には餌イワシが余っていると聞きます。
- ・イワシは全世界で食されますし、料理の幅の広い食材です。今こそ、研究のスポットをあててもらいたいと思います。今後、良い情報をお待ちしております。

(須能委員)

- ・この研究を進めるためには、まず、パートナーを探すのが先決ではないかと思えます。私も協力するので、定置網に入網したイワシを高値で買っている業者から、仕向け先などを始めとした様々な情報を入手して、現実味のある研究をしてほしいと思えます。

(伊藤委員)

- ・年次計画では流通業界との連携が最終年度の平成29年になっておりますが、連携を最初にやるべきと考えます。そして、色々な人に解っていただいて事業を進めた方がよろしいのではないかと感じます。また、その方がパートナーのモチベーションも上がるのではないのでしょうか。

(永木副主任研究員)

- ・一度石巻魚市場に伺って、どのようなやり方ができるか等、相談させていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

(大関部会長)

- ・高鮮度なものを加工して「こんなに違いがあるんだ」というものを見せて、加工業者が高鮮度なものを高く買うという仕組みを作らないと先に進まないと思えます。その後に、鮮度維持の方法等を検討していく方がよいのではないかと感じました。

(須能委員)

- ・魚市場の近隣に加工場があるというのは、鮮度維持のためでありますし、このような現場の方々から知恵を借りて取り組んだ方がよろしいと思えます。

(永木副主任研究員)

- ・ありがとうございます。加工業者との連携につきましては、高鮮度維持の試験をしながら同時並行で加工業者と相談して、前のめりで進めていきたいと思っております。

(大関部会長)

- ・以上で、研究課題3課題全てについての審議を終了させていただきますが、評価シートの取りまとめ方法について事務局から説明願います。

(事務局 稲田技師)

- ・委員の皆様から、事後及び事前評価を頂く訳ですが、その際の、評価項目や評価基準について簡単に説明します。お手元の資料1-5評価表をご覧ください。
- ・今回お示しする評価項目と評価基準は、これまでの部会で審議され了解頂いたものと同様になっております。
- ・1ページめと2ページめが事後評価シートとなりますが、項目別評価として、目標達成度、研究成果、地域への貢献度・波及効果の3項目についてそれぞれ4段階評価を頂きます。重み付けは順に30, 30, 40と設定されております。
- ・次に3ページめが事前評価シートとなりますが、項目別評価として、研究目標の妥当性、緊急性・優先性、独創性・先進性・優位性、市場性・成長性、実現可能性、人・予算・設備等の推進体制の6項目について、それぞれ4段階評価を頂きます。重み付けは20, 20, 20, 20, 10, 10と設定されております。
- ・お手数でも、それぞれの項目についてのコメント並びに総合所見をできるだけ簡潔に付記して頂ければと思います。
- ・次に、評価シートの取りまとめについてですが、メール又はファクシミリにより、2月19日(木)までに、事務局あてに返信をお願い致します。
- ・返信されました評価シートにつきましては、事務局で取りまとめ整理の上、改めて各委員にその内容をお示した上で、大関部会長に確認願ひ、本評価部会の決議とさせていただきますが、如何でしょうか？

(大関部会長)

- ・それでは、そのように取り計らうこととしてよろしいですか。

(委員) 異議なし

(大関部会長)

- ・それでは、各委員には評価シートの作成について、よろしくお願ひしたいと思います。
- ・なお、事務局で取りまとめた結果については、改めて各委員に内容を確認しながらシートの整理をさせていただきます。

(大関部会長)

- ・それでは、研究課題の評価シートの取りまとめ方法の説明等も終わりましたので、ここで10分程度の休憩を設けたいと思っております。開始は15時40分とさせていただきます。

※10分間休憩

(大関部会長)

- ・それでは、審議を再開します。次に審議事項（3）宮城県水産業試験研究推進構想（案）について説明をお願いいたします。

※山岡所長説明

(大関部会長)

- ・ただ今、説明のありました宮城県水産業試験研究推進構想（案）について、各委員から何か御意見、御質問はございませんか。

(須能委員)

- ・かなりボリュームが多いと感じます。何人のスタッフでこれらの課題に対応するのか？と考えると、非常に厳しいと感じます。
- ・東日本大震災から4年が経過しようとしていますが、まずは現場と行政の間に試験場が入って、泥臭いことをやってほしいと考えます。推進構想にあまりこだわらずに、ニュートラルな立場で業務にあたってもらいたいと考えます。
- ・その後、復旧・復興が安定してきたら、優先順位を考えて対応して行ってほしいと考えます。

(齊藤委員)

- ・推進構想（案）を見ると、膨大な業務量なので、最重点とかできる範囲で対応して行ってほしいと思います。

(山岡所長)

- ・全てを平等に対応するという考えではありません。タイミング等や重さなどを考えながら、現場に則した対応をしていきたいと考えております。

(伊藤委員)

- ・課題がこれだけあるのに、職員数が足りない状況であると思います。職員数を充実していくのも必要であると考えます。
- ・それぞれの事業の繋がりや横断的な取り組みを期待します。

(大関部会長)

- ・私も同じような研究機関におりますので、このような構想等を作成しなければならないということも理解できます。
- ・現場で求められていること、特に漁獲制限されている福島県に近いこともあり、ヒラメやマダラの資源状況というのは地場でなければ解らないこともありますし、磯根資源などは、これからどのようになっていくのかは研究面でも漁業者への対応としても難しい問題だと考えます。そのようなところに力点を置いて試験研究を進めて行ってほしいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(須能委員)

- ・研究者の社会的使命として、現場と行政の間に入って泥臭い仕事をするという覚悟を構想に書いてほ

しいと考えます。

(山岡所長)

- ・推進構想は、このように作らせていただきますが、当センターは現場とともにあると考えております。また、我々だけで解決できない問題は、水研や大学と連携して取り組んで参りたいと考えております。

(大関部会長)

- ・それでは、以上で、宮城県水産業試験研究推進構想（案）についての審議を終了させていただきますが、この推進構想に係る意見表の取りまとめ方法について事務局から説明願います。

(事務局 西城技術主幹)

- ・資料2-2でございます。様式は研究課題の評価表といっしょに委員の皆様にもメールを送らせていただきます。意見表の記入方法ですが、それぞれの項目に対して、ご意見等があれば記入していただきたいと思っております。メールでもファックスでもかまいませんので、2月19日までに提出をお願いいたします。

(大関部会長)

- ・次にその他にはあります。事務局からは何かありますか。

(事務局)

- ・ありません。

(大関部会長)

- ・無いようなので、これにて審議を終了します。速やかな進行に御協力いただき誠にありがとうございました。

(司会：西城技術主幹)

- ・委員の皆様、御審議ありがとうございました。
- ・それでは、報告事項に移ります。
- ・報告事項（1）平成27年度水産関係試験研究計画の概要（案）について、事務局より報告させていただきます。

※遊佐主任主査説明

(司会：西城技術主幹)

- ・ただ今の説明について、何か質問等があればお願い致します。
- ・それでは、以上をもちまして本日の評価部会を終了させていただきます。委員の皆様ありがとうございました。なお、本年度の水産業評価部会は今回の1回だけの開催となります。